

資料 1

2025/9/30 第 3 回総合計画等審議会「第 7 次焼津市総合計画（案）」に対する意見と対応方針

委員名	指摘事項	コメント	対応方針
古谷委員	2-4安心長寿の成果指標について	成果指標は現状値よりも上がっていてこそ成果だと思うがいかがか。	本指標は、作成段階における令和11年度までの75歳以上高齢者人口の推計と近年の要介護認定率を基に算出しており、今後数年間は、要介護認定率の高い85歳以上の人口増加が見込まれるため、目標値が低くなっているが、本計画では現推計値より抑制幅を向上させることを目標としている。
岡本委員	全体的な成果指標について	基本的には、より良くしたいということを考えると指標を上げていかなければならない、ということがあると思うが施策によっては下がっている指標もある。また、現状の令和 6 年度の数値が記載をされてない項目もあるので、この辺りの説明をいただきたい。	R6の数字がない箇所はR5でも良いので数字を入れる。新規指標については新規指標と示す。まったく指標がないものは－とする。
橋本委員	地域防災力の向上について	避難タワーを巡るスタンプラリーの実施について前回意見したが、基本事業名にある地域防災力の向上の部分に市民防災リーダー育成などの中に含まれるか。（市民からの提言書の意見）	事務事業で対応していく。
新井委員	風水害について	竜巻被害があった場合の支援はどこに入るか	風水害で対応していく。
大石委員	少子化でクラスが減と なっていくことに対する 課題と方針について	こどもの数が減ってきていて、1学年1学級が増えてくるであろう状況であるが、こどもが減っていることに対する対応が文言として見つからなかった。学校の統廃合に関しては公共施設マネジメントで考えていくことだと思うが、こどもが減ることによって、先生が全体を見やすくなるとかそういうメリットもあるかもしれないが、何かしらの課題も生まれてくるのではないか。自分のこどもも今小学校に通っているが、昔自分がいたときの小学校と比べてかなりこどもの数が減っている中で、自分が経験したことが経験できていないということもあるし、そういった部分を課題として捉えているのかどうか疑問になったということと、それに対する対応についても、やはりこれからの時代はもっともっと人が減ってこどもが減っていくので、そういった課題や方針がこの基本計画という考え方の中に入っていた方がいいのではないか。	公共施設マネジメントも含めて一体的に考え方を整理したい。 現在行っている近隣校との合同学習などを基本事業の内容に追加
大石委員	水産加工業の人手不足について	主体と役割の部分で、事業所の役割として人材確保・育成に努めますと書いてあり、行政の方だと漁業者の確保育成支援となっていて、水産加工業の人手不足には触れられていない。水産加工業は非常に今、人集めに苦戦をしている。他の業種に比べて就職を希望する優先順位が低い職種であるので、放っておいたらどんどん減ってしまう。 やはり焼津市としては、将来都市像にあるとおり水産文化都市を目指すということであれば、水産業というのは、焼津の経済の原動力というか、エンジンなのかなと思うので、そこに関わる人がどんどん減ってしまうという現状を何とかして食い止めなければいけないというところがあり、ぜひ行政の方からもその人材確保という部分の支援をお願いしたい。人材がいなくなると何が大変かという と、外国人の労働力に結構頼っているのだが、やはり技術の承継というか、技術がなかなか受け継がれない。外国人はいつか帰ってしまうので、やはりずっとここで働いてくれる人に技術を受け継いで、未来永劫それが心の中に残ってくという状態を作っていかなければいけない	漁業者の確保育成支援 →水産業関連人材の確保育成支援に改める
大石委員	スポーツ都市宣言について	スポーツ振興だが、焼津市はスポーツ都市宣言をしていると思う。施策の中にスポーツ都市としての焼津というものがあまり見えなかったのは残念かなと思っていて、スポーツ都市宣言をしたときのあるべき姿とか目指す姿というものは、確か健康にスポーツする人の割合をどんどん増やしてくようなイメージだったと思う。ただ、そのときに色々な統計を見て、焼津市と県の平均を見たら、県の平均よりも低かったと思う。そういう部分で、もしスポーツ都市としてまだまだ継続しているのであれば、やはりこの総合計画の中では、そこを目指すべきではないかと思う。なので、内容的にその部分がかなり薄かったので、そこはもう1度考えていただきたいと思う。	現状にスポーツ都市宣言について追加する。 行政の役割の 1 ぽつ目に「スポーツ都市宣言に基づいて」と加える
原口委員	地域課題の解決に資する コーディネーターについて	担当と話してコーディネーターではなく、ファシリテーターに変更する	ファシリテーターに変更する

古谷委員	焼津らしさの定義	全体を読ませていただいたときに、何か大きなテーマが一つあるなと感じた。焼津らしさ、とか、焼津といえば、焼津ブランドという言葉が頻回に出てきているが、私達が「焼津といえば何」と言えるかなというところが、とても疑問。言葉で焼津らしさというとても簡単だが、焼津らしさとは何だというところが、ここでは示されていない。と感じているので、もし何か「焼津らしさとは」みたいな定義を焼津市の方で持っているのであればお示しいただきたい。	将来都市像にある水産文化都市を大切に にして定義していく
村松委員	一貫性のあるブランド戦略	ブランド的な発想や行動というのは、同じようなことを違うところで発信し合っていて、結果全体が大きな発信力になっていないということが課題なのかと思っている。一貫性のあるブランド戦略、地域資源を活用した焼津らしさを感じられる体験型観光コンテンツの造成について、観光だけでなく産業全体に広げていただきたい。	一貫性のあるブランド戦略については、将来都市像にある水産文化都市を大切にしていく。 体験型コンテンツは産業全体で実施して取り組んでいくが、対象が観光客であるため、観光施策で記載させてほしい。
岡本委員	小泉八雲について	45ページの中に具体的に名前を入れることが適当かわからないが、日本の文豪であり世界の文豪と言われている八雲を顕彰するというか、焼津はおそらく、観光面で八雲を利用しようとして一生懸命頑張っているかと思うが、観光については、焼津市は松江や熊本のようなポテンシャルはないので、それよりも、顕彰していくという意味で焼津を全国に認知してもらえるような内容が盛り込めたらありがたい。	基本事業にある「文化財や伝統文化の保存」に「小泉八雲顕彰事業の推進」を追加する。
岡本委員	耕作放棄地について	耕作放棄地について、市街化区域であろうと、市街化調整区域であろうと、本当に増えている。 今後はこれの対策をとっていかないと、市街化区域で人口が増えている豊田地区でも、耕作放棄地がかなり増えてきている状態にある。 ということは、住環境を守ろうとする方針と反する内容になってくるので、これを行政として考えていかないとまちの景観が失われてしまう。	国の制度的に難しい問題ではあるが、市としては課題感を持っており、基本事業にある農地の集約化と半農半Xで対応していくことになる。
田中副会長	指標の設定について	成果指標が必ずしも方針、基本事業の延長上になっていないものがある ①56ページの観光だが、方針を見ると、満足してほしいとか、いろいろ巡って体験欲しいということを書かれているので、単に観光交流客数が増えてお金を落としてくれればいいということだけではなく、やはり満足度をきちんと測定して、追跡していくというような捉え方が必要なのではないか。観光客の皆様の満足度という指標が適切ではないかということがまず一点目。 ②60ページのインフラについて、これは日本全国で切実な問題だが、基本事業で書かれているインフラの維持管理。これがどう考えても最も重要なことだが、成果指標が整備率になっており、保守点検率はきちんと成果指標として入れた方がいいかなと思う。保守点検がきちんとなされていれば、自ずと皆様の生活も安定していくのではないかなと思うので、それは大事なかなと思った。 ③良好な住環境について、空き家はやはり重要な問題だと思っており、成果指標に空き家率、これは成果指標として設定していただきたい。国の政策などもないと好転はしないが、それでもやはりきちんと意識しておくということが大事で、今書かれている住環境に満足している人の割合と、都市公園面積だけでなく、基本的な指標として空き家率を入れた方が良い。 ④最初にご意見いただいた目標値が下がっている指標については、確かに奇妙な感じがするので、これは注釈というか簡単な説明というか、その目標値の考え方を添える必要がある場所には考え方を添えるということをされるといいのではないかな。	①直接的な満足度を測る指標はないため、再訪したいと答えた割合を追加 ②点検率を追加 ③空き家率を追加 ④巻末の資料編で全体の指標の説明を入れる
田中副会長	横断的な視点	前文を入れるべき 加えて、これが一番大事だが、横断的な視点を持ってどうなるのかということ、具体的に施策とどういう関係になっているのかということが、市民目線で見ると気になる。文章の最後に例えばという形で、そういうことをイメージしていますとかいうことを書けば、この横断的な視点というものがどういうもので、何に繋がっていくのかということになると思う。	ご指摘のとおり修正
田中副会長	焼津らしさ	水産文化というのは素晴らしい言葉で、これは焼津らしさじゃないかと思っており、単に水産業だけではなくて、今日皆様からお話が出ている八雲であるとか浜通りであるとか高草山であるとか体験であるとか歴史と文化が絡まってまち全体ができていくということはものすごい個性である。 なので、その辺りをしっかり定義というか、PRしていくということが大事で、欲張れば、横断的な視点みたいなものとうまく絡めて、焼津らしさみたいなものがより強化されていくというような建付けになっていると、総合計画としては完璧なのではないかな	将来都市像にある水産文化都市を大切に にしていく